

受賞のことば（論文部門）

松田千恵子（東京都立大学）

この度は異文化経営学会 2021 年度最優秀論文賞にご選出頂き、誠に有難うございます。私のささやかな論文をお読み頂いた方々、発表に際してご指導を賜った方々、査読や選考に携わった全ての方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。本研究は、ボード・ダイバーシティ（取締役会の多様性）や中核人材の多様性が、取締役会の意思決定に影響を与え、ひいては業績向上をもたらすのかということ进行分析したものです。コーポレートガバナンス・コードの導入とともに、ボード・ダイバーシティが注目されるようになりましたが、主にジェンダーや国際性といったデモグラフィ型ダイバーシティばかりに目が向き、タスク型ダイバーシティがコーポレートガバナンス・コードに取り入れられたのはようやく今年になってからのことでした。また、女性や外国人などの社外取締役を外部から招聘することにより、取締役会の多様性は曲がりなりにも確保されてきましたが、取締役会以外の中核人材、例えば執行役員などにおける多様性の確保はまだ緒に就いたばかりです。本研究でも、研究対象業界における女性の社外取締役の割合が 9.4%であるのに対して、女性の執行役員、即ちその多くが内部昇格でその座を勝ち取ってきた女性の割合はたったの 2.2%にすぎませんでした。この結果は大変ショッキングなものでしたが、現在の日本企業に漂う閉塞感の正体をいみじくも表しているようにも思えます。本学会でこのような表彰を頂いたお蔭で、こうした実態が少しは知られることとなり、本論文は金融庁や経済産業省の会議においても取り上げて頂き、執行役員等中核人材の多様性確保の強化といった議論につなげることができました。このような社会貢献を果たせたのも、異文化経営学会あつてのことと、心より有難く思っております。

本論文のもうひとつのテーマは「投資」です。事業会社にとって最も重要な意思決定は、企業の将来を左右する事業への投資における意思決定であると考えます。その投資における意思決定が、ボード・ダイバーシティのありようと深く関わっている実態を示せたことは、論文を書いた者としての大きな喜びでもございました。今後さらに研究を続け、日本企業が将来に向けた投資を活発化させ、その果実を得て再び輝けるよう、その道筋を示すことに少しでも貢献できるよう、研鑽を続けてまいりたいと思っております。皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（『異文化経営研究』第 17 号、63-78 頁に論文掲載）